

## (8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鋳工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成19年2月）	今回（平成19年5月）	
住宅建設	おおむね横ばい	減少	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鋳工業生産は堅調に推移している。

化学は、自動車、家電関連向けを中心に好調だったことから、堅調に推移している。鉄鋼は、自動車、造船等を中心とした需要が輸出も含めて好調だったため、5四半期連続で増加している。輸送機械は、完成車の国内向け需要は引き続き伸び悩んでいるものの、国外は、北米や欧州向けが好調なことから堅調に推移している。一般機械は、自動車向け及び、印刷機や自家発電用蒸気タービンが海外向けに好調であったため、堅調に推移している。電子部品・デバイスは、前期の反動により、3四半期ぶりに減少したものの、携帯電話やゲーム機向けを中心に好調だったことから、堅調に推移している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成19年3月の中国は速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

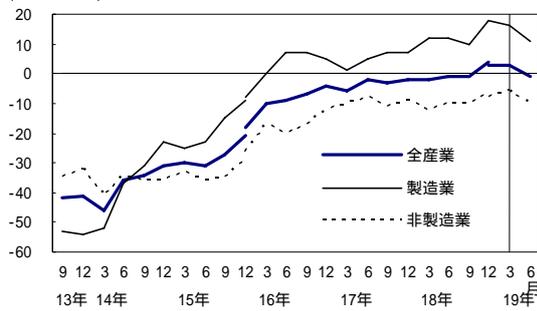
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
化学	17.6	2.1	2.2	3.8	6.5
鉄鋼	12.1	4.7	2.3	4.6	1.9
輸送機械	12.0	8.5	6.9	1.7	16.8
一般機械	10.4	10.1	4.3	0.5	12.1
電子部品・デバイス	7.6	62.5	27.2	13.8	-
鋳工業	100.0	11.6	7.4	1.3	10.0

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 1~3月期は速報値。  
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

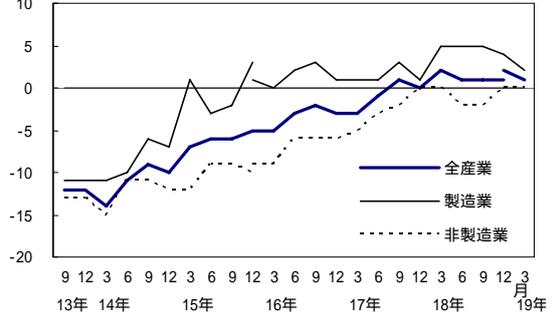
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



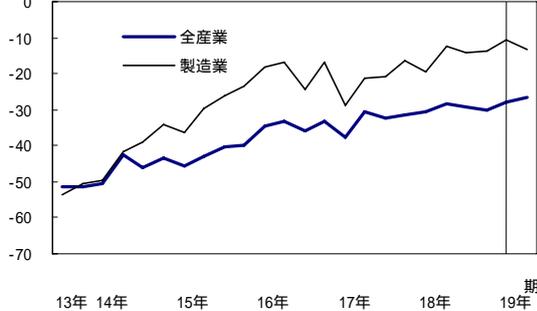
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年6月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「自動車関連及び精錬所関連からの受注は好調であるが、その他については大きな変化はない(化学工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

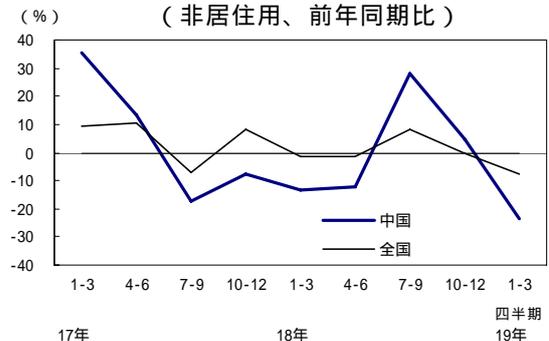
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	18年度実績見込み	19年度見込
全産業	4.1( 0.2)	13.8
製造業	0.6( 1.7)	14.8
非製造業	12.2( 2.1)	12.2

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は緩やかに回復している。

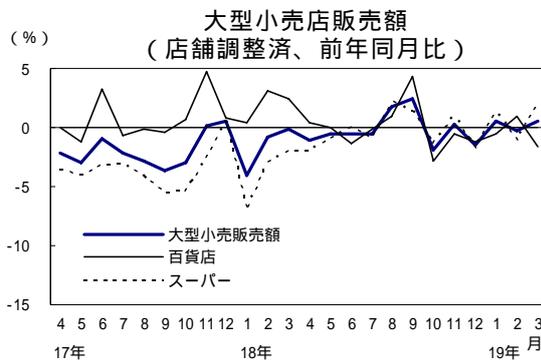
#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りやクリアランスセール、バッグ、アクセサリなどの身の回り品は好調だったものの、暖冬の影響により、衣料品を中心とする冬物商材が伸びなかったことから、前年を下回った。2月は、気温が比較的高めに推移したため、春物衣料品が動きを見せたほか、バレンタイン商戦も好調だったことなどから、前年を上回った。3月は、催事効果や改装効果により、飲食料品は伸びたものの、中旬以降、気温が低下し、春物衣料品が伸び悩んだことなどから、前年を下回った。

スーパーは、衣料品が振るわなかったものの、飲食料品が好調だったため、前年を上回った。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

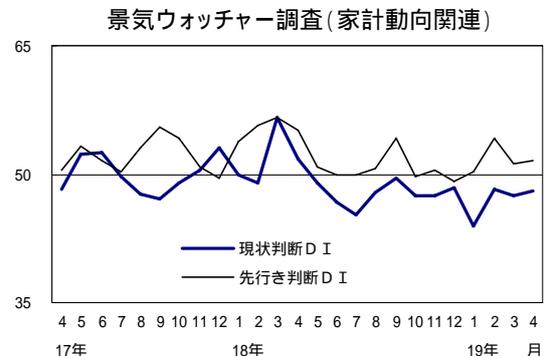
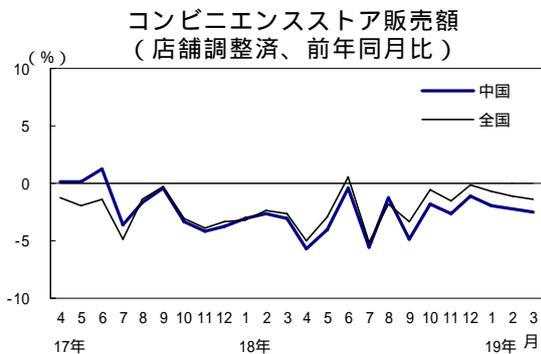
「婦人服業界は、特にヤングについては売れ筋のTシャツやワンピースの動きがなく、ヒット商品も生まれず、かなり厳しい状況であった。子供服については、一人の子供にかかる費用は年々上昇している。また、北海道物産展は大変好評で、客は衣料品より、食の方をかなり高い位置においている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
大型小売店	0.7	1.0	1.1	0.3
百貨店	0.3	1.4	1.5	0.4
スーパー	1.0	0.8	0.8	0.8
コンビニ	3.4	3.9	1.8	2.2
景気ウォッチャー	49.1	47.6	47.8	46.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

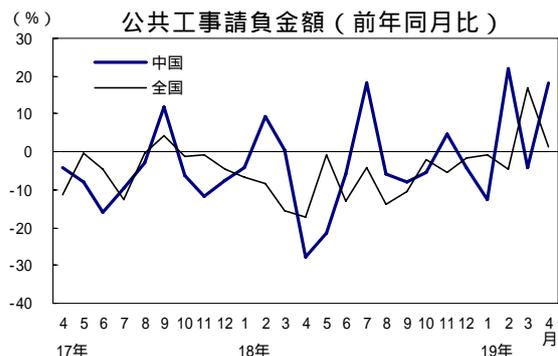
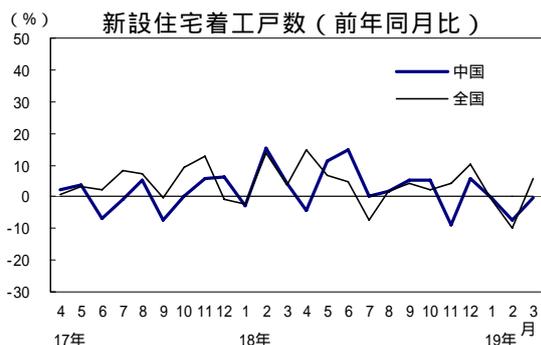
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



### (2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

### (3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

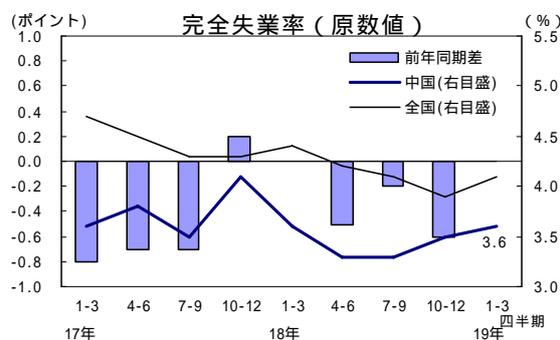
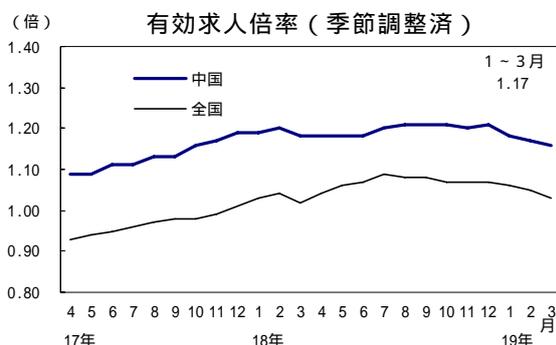


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

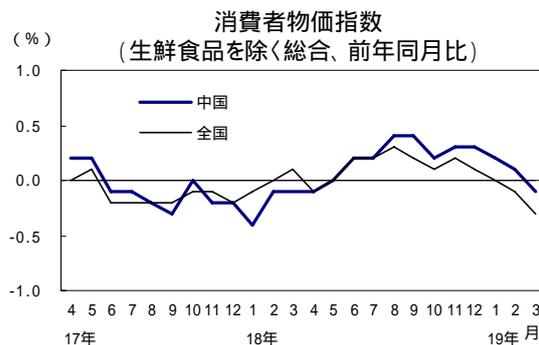
「コンビニ新規オープンに伴う募集などで小売業及び、業務請負の電子部品製造業で大幅増員がなされるなど、求人全体では若干増加傾向にある (職業安定所)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月	19年4月
倒産件数	145	175	156	158	44
(前年比)	3.3	49.6	2.0	14.1	22.2
負債総額	498	1,208	394	611	162
(前年比)	31.9	185.2	37.1	20.8	23.8



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・新生活が始まった社会人、学生を中心に光電話の申込が殺到している。工事も班数を増やす等対応しているが、開通待ちの状況が続き、嬉しい悲鳴をあげている (通信業)

<先行き>

・暖冬のため冬物は不調に終わったが、その分夏物の販売期間が長くなり、売上も増加する (衣料品専門店)

景気ウォッチャー調査 (合計)

